

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

初回作成日:2026年3月25日

前回改訂日:一年一月一日

最新改訂日:一年一月一日

版番号:第1版

1. 化学品及び会社情報

1.1 化学品の名称

| | |
|--------|---|
| 製品名 | GeneAll Exgene™ Blood SV |
| 製品番号 | GA105-106 (Mini 6 回用サンプル) GA105-101 (Mini 100 回用) GA105-152 (Mini 250 回用) |
| バッファー名 | バッファーJBW(濃縮) Buffer JBW, concentrate |

1.2 化学品の推奨用途及び使用上の制限

| | |
|--------|-----------|
| 推奨用途 | 試験研究用実験試薬 |
| 使用上の制限 | 専門ユーザー向け |

1.3 提供者の詳細


| | |
|------------|--|
| 製造元の会社情報 | GENEALL BIOTECHNOLOGY CO., LTD GeneAll Bldg., 303-7, Dongnam-ro, Songpa-gu, Seoul, 05729, Korea |
| 供給者の会社情報 | 日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号 後楽森ビル18階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962 |
| 供給者の緊急時連絡先 | 電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時30分) Eメール:info@genetics-n.co.jp |

2. 危険有害性の要約

2.1 化学品のGHS分類

| 危険有害性項目 | 危険有害性区分 |
|----------------------|-----------------|
| 物理化学的危険性 | 区分に該当しない/分類できない |
| 健康に対する有害性 | |
| 急性毒性(経口) | 区分:4 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分:2 |
| 眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性 | 区分:2 |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 区分:3(気道刺激性) |
| 環境に対する有害性 | 区分に該当しない/分類できない |

2.2 GHSラベル要素

| | |
|-----------|--|
| 絵表示又はシンボル |  GHS07 |
| 注意喚起語 | 警告 |
| 危険有害性情報 | |
| 物理的危険性 | 該当しない |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

| | |
|-------------|---|
| 健康有害性 | H302: 飲み込むと有害 |
| | H315: 皮膚刺激 |
| | H319: 強い眼刺激 |
| | H335: 呼吸器への刺激のおそれ |
| 環境有害性 | 該当しない |
| 注意書き | |
| 安全対策 | P261: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 |
| | P264+P265: 取扱い後は手及び皮膚をよく洗うこと。眼を触らないこと。 |
| | P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| | P271: 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 |
| | P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 |
| 応急措置 | P301+P317: 飲み込んだ場合: 医療処置を受けること。 |
| | P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。 |
| | P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| | P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| | P319: 気分が悪い時は、医療処置を受けること。 |
| | P330: 口をすすぐこと。 |
| | P332+P317: 皮膚刺激が生じた場合: 医療処置を受けること。 |
| | P337+P317: 眼の刺激が続く場合: 医療処置を受けること。 |
| | P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 |
| 保管 | P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 |
| | P405: 施錠して保管すること。 |
| 廃棄 | P501: 内容物/容器は、関係法令及び地方公共団体の規則に従い、産業廃棄物として適切に廃棄すること。 |

3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別 : 混合物

3.2 化学名又は一般名

| | 化学名又は一般名 | CAS 番号 | 濃度又は濃度範囲 |
|----|--|---------|----------|
| ① | グアニジン塩酸塩 Guanidine Hydrochloride | 50-01-1 | 70~80% |
| 注意 | 本製品に含まれる成分のうち、組成や濃度が営業秘密に該当するものについては、関連法規に基づき、成分名を非公開、濃度を非公開もしくは幅記載としています。また、製品仕様上、濃度にばらつきがある場合は、幅記載としています。SDS に記載がなくとも、危険有害性を有さない成分、法令により開示義務のない濃度未満の成分が含まれている可能性があります。 | | |

4. 応急措置

| | |
|--------------|--|
| 一般的アドバイス | 必要な処置をとるために、この SDS を担当医に見せること。 |
| ばく露経路ごとの応急措置 | |
| 吸入した場合 | 多量の粉塵やヒュームにさらされた場合は、新鮮な空気のある場所へ移動すること。 |
| | 咳などの症状がある場合は、医療処置を受けること。 |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに皮膚を水で 20 分以上洗い流すこと。 |
| | 医療処置を受けること。 |
| | 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。 |
| 眼に入った場合 | 直ちに眼を水で数分間洗い流すこと。 |
| | コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続けること。 |
| | 症状が続く場合は、医療処置を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 直ちに口をすすぐこと。 |
| | 不快感がある場合は、医療処置を受けること。 |
| | 適切な呼吸用医療機器を使用し、人工呼吸を行わないこと。 |

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

| | |
|-------------|---------------|
| 適切な消火剤 | 粉末消火剤、乾燥砂または土 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし |

5.2 火災時の特有の危険有害性

| | |
|-------|------|
| 危険有害性 | 情報なし |
|-------|------|

5.3 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

| | |
|-----------|----------------------|
| 消火を行う者の保護 | 適切な保護具を着用すること。 |
| 予防措置 | 火元から安全な距離を保って消火すること。 |

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

| | |
|------------|---------------------------------|
| 人体に対する注意事項 | 粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 |
| | 直ちにこぼれた液体を清掃し、項目 6.3 を参照すること。 |
| | 避けるべき物質と条件に注意すること。 |
| 保護具 | 適切な保護具を着用すること。 |
| 緊急時措置 | 安全に実施できる場合は、さらなる漏洩を止めること。 |

6.2 環境に対する注意事項

| | |
|------------|------------------------------|
| 環境に対する注意事項 | 水路、下水道、排水溝、閉鎖された区域への拡散を防ぐこと。 |
|------------|------------------------------|

6.3 封じ込め及び浄化の方法・機材

| | |
|----------------|--------------------------------|
| 封じ込め及び浄化の方法・機材 | 不活性吸収材で漏出物を吸収し、化学廃棄用の容器に入れること。 |
|----------------|--------------------------------|

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

| | |
|----------|--|
| 安全取扱注意事項 | 本製品を使用する際は、飲食および喫煙をしないこと。 |
| | 空容器にも製品が残留している場合があり、有害となるおそれがあるため注意すること。 |
| | 取扱いおよび保管には注意を払うこと。 |
| | 容器のふたは慎重に開けること。 |

7.2 保管

| | |
|---------|-----------------------------|
| 安全な保管条件 | 容器をしっかりと密閉し、換気の良い場所に保管すること。 |
|---------|-----------------------------|

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

7.3 その他の情報：特定の最終用途は、項目 1.2 を参照すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 許容濃度等

| | |
|---------|-------|
| 管理パラメータ | データなし |
|---------|-------|

8.2 設備対策

| | |
|-----------------|--|
| ばく露を軽減するための設備対策 | 空气中濃度をばく露限界以下に維持するため、プロセスエンクロージャーや局所排気換気装置を設置するなどして、適切な工学的管理措置を実施すること。 |
| | 作業場所の近くに緊急用洗眼器及び安全シャワーを設置すること。 |

8.3 保護具

| | |
|--------------|--|
| 呼吸用保護具 | ばく露物質の物理的・化学的特性に適合し、適切な政府基準により試験・承認された呼吸用保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 適切な政府基準により試験・承認された手袋を着用すること。 |
| | 使用前に手袋を点検すること。 |
| | 使用後の手袋は、関連する規制および GLP 基準に従い処分し、手を洗って乾かすこと。 |
| 眼及び/又は顔面の保護具 | 適切な政府基準により試験・承認された眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な耐薬品性の保護衣を着用すること。 |
| | 作業区域内の物質の濃度と量に応じて選択すること。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|---------|
| 物理状態(外観/形状) | 液体 |
| 色 | 無色 |
| 臭い | データなし |
| 臭いの閾値 | データなし |
| 融点/凝固点(軟化温度/範囲) | データなし |
| 沸点又は初留点及び沸騰範囲 | データなし |
| 可燃性(固体、気体) | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限值 | データなし |
| 引火点 | データなし |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| pH | 7.0~8.0 |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | データなし |
| n-オクタノール/水分配係数(log 値) | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び/又は相対密度 | データなし |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| 粘度 | データなし |
| 分子量 | データなし |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 反応性 | 情報なし |
| 化学的安定性 | 適切な使用条件および保管条件下では安定している。 |
| 危険有害反応の可能性 | 適切な使用条件および保管条件下では安定している。 |
| 避けるべき条件 | 熱、火花、炎 |
| 混触危険物質 | 強酸化剤、強塩基、強酸、金属 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼中の熱分解または燃焼により、高い毒性のガスが発生する可能性がある。 |

11. 有害性情報

混合物としての情報の他、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

11.1 バッファーJBW(濃縮)

| 危険有害性項目 | 内容 |
|------------------|---------------------------------------|
| 急性毒性 | (経口)飲み込むと有害 (経皮)データなし (吸入)データなし |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | 皮膚刺激 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 強い眼刺激 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | データなし |
| 生殖細胞変異原性 | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 生殖毒性 | データなし |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 呼吸器系への刺激のおそれ |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | データなし |
| 誤えん有害性 | データなし |

11.2 グアニジン塩酸塩

| 危険有害性項目 | 分類結果 | 分類根拠・問題点 |
|------------------|--------|---|
| 急性毒性(経口) | 区分 4 | ラット LD50 値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌)(IUCILID(2000))が全て区分 4 に該当している。 |
| 急性毒性(経皮) | 区分外 | ウサギの LD50 値が >2000 mg/kg(IUCILID(2000))により区分外とした。 |
| 急性毒性(吸入:ガス) | 分類対象外 | GHS の定義における固体である。 |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 分類できない | データなし。 |
| 急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) | 区分外 | ラットの LC50 値が 5.319 mg/L(IUCILID 2000)より、区分外とした。 |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | 区分 2 | ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCILID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分 2A | ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCILID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。 |
| 呼吸器感作性 | 分類できない | データなし。 |
| 皮膚感作性 | 分類できない | モルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test)(EPA ガイドライン)において感作性なしの記載(not sensitizing)(IUCILID(2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。 |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない | in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCILID(2000))が得られている。 |
| 発がん性 | 分類できない | データなし。 |
| 生殖毒性 | 分類できない | データなし。 |
| 特定標的臓器毒性(単回暴露) | 分類できない | データなし。 |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

| | | |
|----------------------|--------|--------|
| 特定標的臓器毒性 (反復暴露) | 分類できない | データなし。 |
| 誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性) | 分類できない | データなし。 |

12. 環境影響情報

混合物としての情報の他、各成分(原体)の環境影響情報を以下に示す。

12.1 生態毒性

12.1.1 バッファーJBW(濃縮)

| 生態毒性 | 内容 |
|-----------|-------|
| 魚類に対する毒性 | データなし |
| 甲殻類に対する毒性 | データなし |
| 藻類に対する毒性 | データなし |

12.1.2 グアニジン塩酸塩

| 危険有害性項目 | 分類結果 | 分類根拠・問題点 |
|----------------|--------|----------|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 分類できない | データなし。 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない | データなし。 |
| オゾン層への有害性 | 分類できない | データなし。 |

12.2 残留性・分解性

| | |
|--------------|-------|
| バッファーJBW(濃縮) | データなし |
| グアニジン塩酸塩 | 難分解性 |

12.3 生物蓄積性

| | |
|--------------|-------|
| バッファーJBW(濃縮) | データなし |
| グアニジン塩酸塩 | 低濃縮性 |

12.4 土壌中の移動性：データなし

12.5 他の有害影響

| | |
|-----------|-------|
| オゾン層への有害性 | データなし |
|-----------|-------|

13. 廃棄上の注意

13.1 化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

| | |
|-----------|---|
| 製品及び残余廃棄物 | 内容物/容器は、関係法令及び地方公共団体の規則に従い、産業廃棄物として適切に廃棄すること。 |
| | 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険有害性を告知すること。 |
| | 環境への放出を避けること。 |
| 汚染容器及び包装 | 完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処理すること。 |

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

| | |
|--|-----|
| 国連番号 (UN Number) | 非該当 |
| 品名(国連輸送名) (UN Proper Shipping Name) | 非該当 |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

| | |
|---|---|
| 国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class) | 非該当 |
| 容器等級 (Packing Group) | 非該当 |
| 海洋汚染物質 | 該当/非該当 |
| ユーザー向け特別注意事項 | ADR/RID(陸上規制)、ADN(内陸水路規制)、IMO/IMDG-Code(海上規制)、ICAO/IATA-DGR(航空規制)で規制された危険物ではない。 |

14.2 国内規制

| | |
|--------|------------------------------------|
| 海上規制情報 | 船舶安全法の規定に従うこと。 |
| 航空規制情報 | 航空法の規定に従うこと。 |
| 陸上規制情報 | 毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。 |

15. 適用法令

15.1 該当法令

| | |
|----------------|---|
| 化審法 | 非該当 |
| PRTR法 | 非該当 |
| 労働安全衛生法 | グアニジン塩酸塩 :名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) :名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和8年4月施行予定) |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 消防法 | 非該当 |
| 廃掃法 | 産業廃棄物 |
| 麻薬及び向精神薬取締法 | 非該当 |
| 覚醒剤取締法 | 非該当 |
| 薬機法 | 非該当 |
| カルタヘナ法 | 非該当 |
| 火薬類取締法 | 非該当 |
| 高圧ガス保安法 | 非該当 |
| 化学兵器禁止法 | 非該当 |
| 大気汚染防止法 | 非該当 |
| オゾン層保護法 | 非該当 |
| 悪臭防止法 | 非該当 |
| ダイオキシン類対策特別措置法 | 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | 非該当 |
| 下水道法 | 非該当 |
| 水道法 | グアニジン塩酸塩:水質基準 |
| 海洋汚染防止法 | 非該当 |
| 航空法 | 非該当 |
| 船舶安全法 | 非該当 |
| 港則法 | 非該当 |
| 道路法 | 非該当 |
| 労働基準法 | 非該当 |
| 農薬取締法 | 非該当 |
| 土壌汚染対策法 | 非該当 |
| 水銀汚染防止法 | 非該当 |
| 地球温暖化対策推進法 | 非該当 |
| フロン排出抑制法 | 非該当 |

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0023-2)
GeneAll Exgene™ Blood SV:バッファーJBW(濃縮)

16. その他の情報

この安全データシート(SDS)は、作成時点において入手可能な製品情報および危険有害性情報に基づいて作成しておりますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。このため、新たな情報を入手した場合には、内容を追加または訂正することがあります。また、本 SDS に記載された情報は、製品の通常の取扱いを前提として提供するものであり、すべての使用条件下での安全性を保証するものではありません。ご使用に際しては、実際の作業条件に応じて十分な安全対策を講じてください。

引用文献及び参照ホームページ等

- ・サプライヤー提供の SDS
- ・JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性の情報伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- ・NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上